

の連鎖から免れる唯一の道ですが、全世界的にはまだ識字率が非常に低い現状です。そして、「保健及び飢餓救済」。毎年、1,100万人の子供が飢え死にしており、ほとんどが開発途上国の子どもたちで、主な死因は栄養失調と水感染の疾病です。最後に「ロータリー家族」について。ローターアクト、インターアクト、ロータリー地域共同体、プロバスクラブ、ロータリーの財団学友、ロータリー自身の家族ということですが、ボイド氏はさらにつけ加え、ロータリーの目標達成のために活動しているすべての人々がロータリー家族のメンバーであるとしています。

次に、2006～7年度の地区の重点目標について。

1.クラブ主導、地区支援

各クラブが地域社会でよりよい奉仕活動ができるよう地区がクラブを支援する。会員は自分のクラブでの立場を意識して行動していただきたい。

2.CLP（クラブリーダーシッププラン）の検討、導入

クラブのさらなる活性化を図り、組織の見直し、簡素化の検討、並びにクラブ全員の総意により導入を決めるということです。近々、地区でマスタープランをつくってご提示申し上げようと思っています。

3.クラブの魅力づくり、活性化に率先して協力する

現状に甘んじることなく、よりよいロータリー、ロータリアンを目標に前進するためには何をなすべきかを考え、実践していくことだろうと考えます。

4.地域に根ざしたクラブづくりの推進

少子高齢化を迎えたわが国の地域社会における共通のニーズは、高齢者と子どもの問題に集約され、これに焦点を合わせた継続的な奉仕活動は、地域に根ざす絶好のチャンスではないかと考えます。

5.ロータリー綱領についてさらなる学習をしよう

日頃から常に自分なりにロータリーの学習をし、わかったことから実践することが大事だと思います。

6.会員増強は各クラブ純増1名以上とする

2590地区は63クラブあるので、純増63を目指したいと思います。

7.ロータリー財団の年次目標は1会員年間120ドル。ベネファクターは各クラブ2名を目標とする。

寄付目標の達成は大切だが、それ以上に大切なことは、ロータリー財団の活動プログラムを会員によく理解していただくよう、ロータリー財団委員長をはじめ、委員の皆様から折に触れて動向をご提供いただき、その上でご寄付願いたいと思います。

8.米山奨学金の寄付は普通寄付5,000円、特別寄付2万円を目標とする。計¥25,000

当地区は、本年6月末で1人当たり2万6,240円の寄付をいただき、連続11年間、全国でトップの成績です。ご協力ありがとうございます。

9.新世代の育成プログラムを検討、実行しよう

新世代とは、0歳から30歳までをいい、より幅広く青少年問題に取りかかろうという趣旨です。

10.社会奉仕活動（高齢者福祉）一環としてプロバスクラブの設立を検討しよう

これについては例会後、詳しくお話します。

最後にRI会長賞にぜひ挑戦していただきたいと思います。来年の4月1日までに地区ガバナーに書類を提出してください。また、インターアクトクラブは昨年度、当地区で3クラブ創立し、15クラブになり、ローターアクトクラブは昨年度、川崎大師ローターアクトクラブが誕生し、地区内6クラブになりました。ロータリアンの皆様方のさらなるご理解と温かいご支援をお願い申し上げます。

以上、かいつまんでお話しさせていただきました。どうぞ本年度、渡邊会長を中心に、魅力ある当クラブにさらに磨きをかけていただいて、素晴らしいクラブになりますようご祈念申し上げます。ありがとうございました。

